

令和6年度 第1回藤沢市部活動推進協議会 会議録（案）

1 開催日時

2024年8月21日（水） 13時15分～15時

2 開催場所

市役所本庁舎3階 会議室3-3

3 委員および出席者

【委員】

	氏 名	所 属	出 欠
1	池田 敏和	横浜国立大学教育学部	出 席
2	新屋敷 正隆	元藤沢市立中学校長・部活動指導員	出 席
3	吉野 勝	藤沢市文化団体連合会	欠 席
4	林 良雄	藤沢市体育協会	出 席
5	谷口 三千也	藤沢市スポーツ少年団	出 席
6	太田 修二	藤沢市民交響楽団	出 席
7	滝内 洋子	藤沢市学校・家庭・地域連携推進協議会長会	出 席
8	福家 大輔	藤沢の子どもたちのためにつながる会	出 席
9	櫻井 光	特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構	出 席
10	神原 勇人	公益財団法人藤沢市みらい創造財団	出 席
11	山田 大	御所見中学校（藤沢市中学校体育連盟副会長）	出 席
12	長田 光子	元藤沢市立中学校長（吹奏楽）	出 席

13	岸 寛人	高浜中学校（藤沢市中学校体育連盟理事長）	出 席
14	池上 喬之	明治中学校（吹奏楽）	出 席

【事務局】

	氏 名	所 属
1	坪谷 麻貴	教育部 参事
2	丸谷 英之	教育指導課 課長
3	平田 憲司	教育指導課 主幹
4	野口 博史	教育指導課 指導主事
5	岸本 有香子	教育指導課 主査
6	加藤 財英	教育総務課 参事
7	一柳 善彦	教育総務課 主幹
8	浅上 修嗣	生涯学習総務課 主幹
9	森本 琢実	文化芸術課 課長補佐
10	浅野 智一	スポーツ推進課 課長

4 会議録

1. 委員委嘱・任命
2. 会長、副会長選出
3. 会長、副会長挨拶
4. 報告
 - ①令和5年度部活動地域移行推進協議会の振り返り
 - ②令和6年度部活動地域移行推進協議会の計画

5. 協議

「藤沢市学校部活動アンケート(案)」について

6. 事務連絡

7. 閉会挨拶(副会長)

【当日の記録】

事務局 : それでは、開催に先立ちまして、本市教育委員会教育長、岩本よりご挨拶申し上げます。

教育長 : 改めまして皆様こんにちは。こんにちは。藤沢市教育委員会教育長の岩本と申します。連日暑い日が続いておりますけども、今日も本当に暑い日にお越しいただきまして本当にありがとうございます。皆様におかれましては、令和6年度藤沢市部活動地域移行推進協議会の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。開会にあたりまして皆様に心より感謝を申し上げたいと思います。この夏、多くの運動部においては中学3年生の最後の大会が行われました。昨日は、六会中学校の陸上競技部が全国大会で400mリレー優勝したというビッグニュースも入ってきているところでございます。中学校における部活動は、同じ興味関心を持った集団の中で、自ら努力することの大切さ、仲間とともに支え合うこと、またご家族を含めた自分を支えてくださる方への感謝など、子どもたちが心身ともに大きく成長する教育の場であるというふうに思っております。そうした中、子供たち1人1人が多様性を尊重し、生涯にわたって主体的にスポーツ文化芸術活動に親しむことができる環境を整え、かつその仕組みを構築していくことは、本市の子どもたちの未来のためにとても大切であると捉えております。昨年度、本推進協議会を立ち上げ、本市の方針を整備することを主たる目的として、委員の皆様から様々なご意見等をいただきました。今年度につきましては藤沢の子どもたちがそれぞれに適した環境でスポーツ文化芸術活動に親しめる社会の構築に繋がるよう、原点に立ち返りまして本市の課題、ニーズ等を掴むことができる協議会にしていきたいと考えております。今後、越えるべき課題はまだまだ数多くありまして、困難な道のりであると承知をしておりますけれども、部活動の地域移行は強い意志と、強固な連携のもとに取り組まなければならないものだと考えております。結びになりますが、委員の皆様にはそれぞれ所属される団体等を代表し、藤沢の子どもたちにとって望ましい持続可能なスポーツ活動、文化芸術活動の構築に繋がるご協力をお願いしたいと思っております。1年間どうぞよろしく願いいたします。

事務局 : 改めまして、会長の池田委員よりご挨拶をお願いいたします。

会 長 : それでは皆さんこんにちは。会長にご推薦いただいたということで、微力ではありますがよろしくお願いいたします。私は横浜国立大学の教育学部で実は算数数学教育が専攻なのですが、これまで鎌倉小学校付属の小中学校で校長を3年間やっております、その際やはり部活の問題が、結構大きなテーマになっておりまして私自身もかなり問題意識は強く持っております。先ほど教育長からもお話がありましたが、部活動の重要性を十分理解しています。また働き方改革等で、いろんな課題があることも存じております。一つ私が思うのは、なかなか難しい問題なのですが、やはり学校と、保護者と地域で問題を共有することが原点になることから、スタート地点を共有していく。なかなかスタート地点が一致してないと進まないといったところもあるかと思います。その後よく言われているのですが、連携して作っていくプロセス結果がどうかということ、結構我々結果を重視しがちなのですが、それを作っていくプロセスが非常に重要なのかなと。どちらかというとトップダウンというより下から盛り上がっていくような、そういう機運こそが、やはりこういう大きな問題を解決していくのかなと思っております。そういった意味では、この会は各地域の方々また部活専門の方々いろんな先生がお集まりいただき、これを軸に一步步進めていければなと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 : 池田会長ありがとうございました。続きまして、副会長の新屋敷委員よりご挨拶をお願いいたします。

副会長 : 改めましてこんにちは。私の方は今まで培った経験等に基づいて、審議会の課題は大きいかなと思っておりますけれども、微力ではございますが、池田会長を支えながら皆さんとともに円滑に、この課題を整理したりまとめたりすることができればと思っております。よろしくどうぞお願いいたします。

会 長 : 早速ですが、次第に従って進めていきたいと思えます。よろしいでしょうか？それでは5番の報告ということで、令和5年度部活動地域移行推進協議会の振り返りと、令和6年度部活動推進協議会の計画を事務局の方からよろしくお願いいたします。

事務局 : それではまず①番、令和5年度部活動地域移行推進協議会の振り返りにつきまして資料の5ページ6ページをご覧ください。まず、昨年度の協議会でございますが、国および県の通知並びにガイドラインを受け本市の方針案を整備することを主な目的として、全5回重ねて参りました。本市の方針案につきましては、今後事務局と関係各課等とで調整を行っ

て参ります。特に今年度の協議に繋がる第5回の委員の皆様からいただいた主な意見につきまして、資料6ページの下段に記載の通りでございます。また、昨年度実施した休日における地域クラブ活動モデル実証につきましては、資料の7ページ、8ページにアンケート結果のまとめと分析を掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。続きまして報告②令和6年度部活動地域移行推進協議会の計画につきまして、資料の9ページをご覧ください。今年度の本推進協議会の主目的は、本市の部活動地域移行の計画ロードマップ作成の根拠となる本市の課題とニーズをつかむとしております。特に今年度は、記載にありますAからCの三つの柱で取り組みを進める計画です。A上段の表にございますように、本推進協議会は年3回開催予定でございます。その他、中段のB部活動への地域人材配置を促進や下段Cの部活動のダウンサイジングに取り組んでまいります。詳細につきましては後ほどお目通しいただけたらと思います。

会 長 : 今の説明について何かご質問等ありましたらよろしくお願いいたします。なおこの会議では意見等ある場合は手を挙げていただいて、その時にお話しいただきたいと思っております。いかがでしょうか？今日のメインテーマは次の次第の6番になるかなと思っております。藤沢市学校部活動アンケート案が今日のメインテーマになりますのでよろしくお願いいたします。それではこれも事務局の方からご説明よろしくお願いいたします。

事務局 : それでは資料冊子令和6年度部活動アンケート案をお手元にご用意ください。委員の皆様には事前に本部活動アンケート案を送付させていただきました。事務局といたしましては、本市の部活動の課題やニーズを捉える手立ての一つとして、本アンケート案を活用したいと考えております。教員向け、学校長向け、生徒向け、保護者向けの4種類あります。より適切な表記表現追加した方が良い設問などお気づきの点などがございましたら、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

会 長 : 皆さんこれ事前に目を通していただいている形でよろしいでしょうか？それではこの4つのアンケートについてこれからいろいろ協議をしていきたいと思っております。4つありますので大きく分けて、校長向けと教員向け、まずこの2つについていろいろご意見いただいた上でその後生徒向け保護者向けということで、2段階でお話できればなと思っております。まずは校長向け教員向けといったところで、忌憚ないご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか？

委 員 : それでは校長先生向けのアンケートの方でお話をさせていただきたいで

す。資料 29 ページから 30 ページあたりに関係してきますが、部活動指導員か外部指導員を導入している学校で、どういう問題があるのか、どういうことが困り事であるか、例えばですね、報酬が安すぎるのではないかとかそういうことも含めて、校長先生方の受け止め方とか、現場での現状とかというのをここで聞いていく必要があるのではないかと感じました。

会 長 : 今の件について他の委員の方いかがですか。同じように思われているとか等、いかがでしょうか？

委 員 : 現状、どういう方を求めているのか、その方をどうやって探しているのかまでは聞かれているのですが、そういう方たちが実際に現場に入って活動した中でも、課題ですとか良い面、悪い面両方あると思います。そういったものをこのアンケートの中で一同にしておいた方が地域移行ですとか、外部指導者をどんどん取り入れていくっていう拡大の中でもヒントになるようなものとか、制度設計に対して考慮しなきゃいけないようなことが浮き彫りになってくるのではないかなという考えです。

会 長 : 今のお話は例えば教員の方にも入ってない形ですかね。要するに外部指導員をお願いしたときの良かった点、課題等という話なのですが、これは事務局いかがでしょうか。これは教員の方にも入っていない。

事務局 : 教員のアンケートですと 4 ページ 5 ページあたりに地域指導者に係る質問があるのですけれども、今のような現場で活用する上での課題等について尋ねている設問は現在のところございません。

会 長 : なるほど。はい。これは校長だけという形なのか、教員の方も？

委 員 : どちらかというと教員向けは現在部活動の顧問をしている人、していない人も含まれますし、積極的に部活動に関与していこうという考えの方もそうでないという考え方の方もいらっしゃるので、校長でよろしいのではないかなと思います。

会 長 : 学校の立場としてはいかがですか。

委 員 : ご意見に賛同します。校長という立場としては、できれば部活動指導員を入れたいのですが入れられない現状がありまして、なぜ全校に配置できないのかというところが、その理由が浮き彫りなると思いますので、ぜひそういった項目を追加していただけるとありがたいなと思います。

事務局 : 事務局から 1 点補足させていただきます。先ほどの教員向けアンケートにその地域指導者が現場での課題等質問がないのかというお尋ねがあったのですが、7 ページにございます設問の 11 で教員向けに、現在担当している部活動について困っていることや悩んでいることがある場合、当てはまる三つまでを選択とあるのですが、その選択肢の中に上から四

つ目、地域指導者との連携不足や、人間関係という選択肢がありまして、多くの中の一つでありますけれども、地域指導者に係る課題悩みに答えられる設問があるということを補足させていただきます。

会 長 : 教員向けには少し入っているといったところと、管理職向けに今の課題等を書いていただくってところでご賛同いただけたところだと思いますが、これは自由記述の方がいいのか、それとも選択肢を設ける方がいいのか、いかがでしょうか。

委 員 : この全体のアンケートを見ると各設問に対する自由記載欄もないですし、アンケート全体に対する自由記載欄もないのです。後ほど保護者向けとかのところでもお話をさせていただきますけれども、選択肢が数多く準備をされていて、網羅をされているというふうに思いますが、やはりいろんな視点からの意見を取り入れなきゃいけないということであれば、その選択肢に限りがあるということであれば、自由記載欄を設ける方がより生の声は受けられるのではないかと思います。特に選択肢に多くある選択肢以外は他に特になしとか該当なしとかっていう選択肢を選んで、前に進むという方式ですと本当に実際の意見の反映がされているのかどうかっていうのは、若干疑問が残る点かなというふうに思っております。

会 長 : 自由記述についてお話が出ておりますがいかがでしょうか。

委 員 : そもそもこの設問の回答の選択肢がどういった根拠でどうやって出てきたのかってところが気になっていまして、私は教員ではないので、現場の意見がここで拾い切れているのかというのは何とも言えないですが、アンケートというのは方向性を作って、設問設計して回答を導くものなので、こちら側の意図が透けてしまうと教員の方も答えにくいかなとは思いますが。特に悩みの部分だとできないとか1人顧問体制とか結構具体的な話が割と出てきているのですが、こういったのは例えば国や県のアンケートで多かった質問事項がここに載っているとか、そういったことであれば少し納得感も出るのかなと思いますけど、何となく誰がこういうことを考えて言っているのかが見えないと、ちょっと答えにくいのかなと。自由記述の方がもしかしたら多角的な視点からいろんなことが言いやすいのかなと。引き出すためにはたくさんのバリエーションの選択肢を用意するよりは、少しフリーな回答もちょっとお手数はかかってしまうかなと思うのですが、もうちょっと選択肢の幅を、細かすぎずにした方がいいのかなというふうな印象を持ちました。

委 員 : この選択肢の中で全て答えようとしている内容があるかどうかというのがちょっとまだわからないので、必ずその他としてそれぞれ感じたことを書いていただくってところを設けてないと、ここで選べと言っ

てもこれにないよって言ったときに、回答ができないのではないかと思いますし、今お話があったように、その気持ちを汲み取るということであれば、記述式の解答欄を設けたらいいのではと思います。各項目これしかないかなというところもあるのですが、これで言い表せているかという項目がたくさんありますので、必ずその他っていうのを設けて記述できるような欄を設けた方がいいのではないかと思います。

会 長 : その他がそれぞれ入っているかと思いますが、その他の入っていない箇所についてはいかがでしょうか。

事務局 : 選択肢がある程度限定される設問についてはそこで選んでいただければと思いますが、表現しきれない可能性のある設問につきましては、もう一度見直しまして必要に応じてその他で記述ができるような形で選択肢を作りたいと考えております。

会 長 : もう一つ先ほどご質問でこの選択肢はどういう形で出てきているのかというご質問だったと思いますが、これも事務局からお願いします。

事務局 : 今回のアンケートを作るに当たりましては、学校現場、校長経験者等の下地になる設問について、どういったことを教員、校長、生徒、保護者に聞けると良いのかというところを、まずは現場で充分経験を積まれてこられた方等にお聞きしながらお作りしたり、また県教委の方で既に実施している部活動に関するアンケートの設問を参考にしたり、また民間でもいろいろな調査が既に行われているところもありましたので、そのあたりで少し補完できるような設問があれば参考にさせていただいたところなんです。

委 員 : 勉強不足でしたのでいろんなアンケートを見ていきたいなと思いました。

会 長 : 先ほどの部活動指導員、外部指導者の良かった点、困った点、また自由記述を設けるといったところですが、自由記述を設けること自体幅が広がる面、また今度分析の大変さといったような話も他方ではあるかなと思います。この辺は事務局の方で自由記述欄を設けるかどうかについてお考え等あれば補足していただけるとよろしいかなと思いましたがいかがでしょうか？

事務局 : 生徒向けと保護者向けについては、最後にそれぞれ部活動地域移行について気になることや期待することなどありましたらご記入くださいという、割と的の広い設問と欄を設けさせていただいたので、その辺りはもしかしたら他の設問で答えきれなかったことがここに回ってくる可能性もあるのかなとは想定しているところがございます。一方、教員向け校長先生向けの方にはそういった欄はないのですが、校長先生向けの方にはその他ですとか理由を書いていただくような形で管理職ならではの課

題の捉えや悩みとか、そういった本音が少しでも出せるようにと、意識して作りました。教員はもちろんそういった視点も必要であると、委員の皆様からご意見いただき感じたところです。現場の部活動の状況等を想定しながら選択肢を細かく作っていったという経緯もありますので、ある程度その中で、選択できる作りでございます。

会 長 : 今の説明を受けて、ある意味本当に本音を引き出したいところは自由記述で書いた方がいろんな意見が出てくるだろうというところは当然あるでしょうし、また自由記述がいっぱいになってくると今度は分析が手に負えないところもありますので、ここのポイントはぜひ自由記述で欲しいといったような絞り込みがかなり重要になってくるかなと思います。そういった意味では委員からご指摘いただいた点はある意味、もう少し広く受け止めて聞きたいといったような点でもあるかなと思うのですが、この点に関してもう少しご意見ある方いらっしゃいますか。

委 員 : 29ページに6のところで、部活動指導者、外部指導員の活用が必要なことだと思いますかっていう質問がありますが、これを活用して良かった点とか、悪かった点の回答を導き出すっていうこともできるのではないかと思います。

会 長 : 6番にリンクさせて、その辺の理由のところで今言ったような良かった点、困った点も記述して書いてもらうというリンクを貼ればどうかというご意見だと思います。配置をしたくても、予算の関係でできないというのは理由もあると思いますが、このあたりいかがでしょうか。

委 員 : 今お話ししていただいた通りだと思います。やはりいろんな事情があって、入れたいけど入れられないとか、退職した先生とかにずっと頼っているのが本格的に部活動を長くやっている先生や、部活動というのは何なのかをやっぱり皆で考えないといけない。やっぱり人間形成がすごく大きいことだと思うので、それを抜きに部活動の指導を依頼することは難しいと思います。

委 員 : 学校側の立場として、少しこの内容では無く、方法の話を聞いてもよろしいですか。現場の職員としてこのアンケートをどのように下りてくるのかというのは重要だと思っていて、ちゃんと事情があって、教育委員会から各学校長に話があり、学校長はそれなりに温度感を持って現場の職員にお話をしていただければ、丁寧なアンケート結果を得られると思いますが、激務多忙と言われている中学校の中の教員は、煩雑に適当にやってしまう職員もいるのではないかなと思ったので、そのターゲットは全部中学校教員、正規教員だけじゃなくて、非常勤講師も含めたターゲットのところについてもお願いします。

会 長 : アンケートの進め方について事務局お願いします。

事務局 : 9月に入りますと中学校の校長会がございますので、このアンケートについては改めて説明を考えております。7月に一度頭出しはしているので、時期やそういった詳細を含めたことをもう一度中学校長会の校長先生方にお伝えした上で、各学校現場に戻していただこうと思っております。令和4年度から、毎年のように学校現場にはこういったアンケートにご協力いただいている経過がございまして、おかげさまで多くの皆様にご理解いただきご協力いただきながら、ご回答も多くいただけてきたと思っておりますので、先ほどのご指摘をしっかり受け止めて今回も丁寧な発信をしてまいりたいと考えております。

会 長 : 非常に重要なところで、またアンケートかと適当に付けるとか、やっぱり自分たちの考えていく問題なのかっていったところはかなり大きなところだと思います。

委 員 : 自由記載記述が多くなると、集計等の手間は大変多くなるということで負担はかけてしまうかなというふうに思いますが、教員向けとか保護者向けとか生徒向け、個々の考え方とかスタイルへの回答ではなくて、校長向けはやはり学校運営をしていく校長という立場で、現状を踏まえてのお答えになると思いますのでこの先いろいろな制度や仕組みを作っていく上で大変重要だと思います。当然中心になるのは子どもや保護者、教員の皆さんだというふうに思いますが、やはり学校の運営上とか、そういったものを俯瞰的に見ていただいている校長先生からのご意見は大変重要だと思います。自由記述の集計は大変だと思うのですが、19校ですので、校長先生は19名からのアンケートですので、そこはぜひお願いしたいなということでございます。

会 長 : なるほど、校長先生は俯瞰的に見た意見として自由記述を含めていくところについてぜひお考えいただければと思います。よろしいですか。

委 員 : このアンケートを見たときにこんなに細かく丁寧に作ってくださって大変だっただろうなというふうな思いと、それからこういうアンケートを例えば4年度5年度にやれなかったのかなというのはちょっと思いました。早めにやっておけばもう少しこの後の進みがまたより進んだのかなという感想も一つ持ちました。別件になりますけど、このアンケートの中で選択肢が五つのところがあったり三つがあったり二つがあったりで、結構ばらつきがあります。三つだったり五つだったりっていう違い。それからその他の欄の記述のあるなし。そういったことも含めて何となくばらつきがあるなっていう思いもしました。もし統一できるのであれば、やっていただけるともっとすっきりするなと。各アンケートに答える方

としては正直なところ簡単にできる方がいいのではないかなと思います。選択肢がたくさんあって選ぶにはなるかもしれないけれども逆に言うとそれを読んでいくのもまた大変なのかなと。ならば書いた方が早いのかなと思い、アンケートを受ける側としては、なるべく簡単にした方がやってもらいやすいのかなと思いました。

会 長 : 選択肢の数がかなり多いものと少ないものがあるということなのですが、少ないもの多いものっていうのは意図的に何かあるのかというご質問についてコメントをお願いしたいと思います。

事務局 : 選択肢が多いものと少ないものがありますが、数を揃えるという視点の優先順位は今回下げさせていただいております。理由は、先ほど誰がこのアンケートを作っていたのかという最初のご質問にも繋がるのですが、やはり学校現場で部活動を行ってきた中で、こういったことで苦労しているのだろうなとか、こんなことは大変だろうなっていうことは、ゼロベースではなく様々なところから様々な声を聞いていく中で蓄積されたものがあります。設問によっては、かなりいろいろな答えが出てくるだろうなと想定されるところはありますが、具体的なものはなるべく出したというところがございます。生徒、保護者向けもそれに準じる形で、おそらく逆の立場でこういうことを聞かれたらこんなことを考えているのではないかという、学校生活や保護者から寄せられる相談等とかを鑑みながら作ってきたという経緯がありますので、結果として数がばらついてしまったと捉えております。

委 員 : 学校側として答える側の立場になったときに、確かに選択肢が多いと大変なのか、いろんなご意見を聞きたいとなると自由記述と同じ議論が出てくるかなと思いますが、私はぱっと見た感じ多いなとは思いましたが、こういう苦労もあるよなと自分を慰める部分があり、選択肢はいろんな意味で、これでいいのかなと思いました。

委 員 : これもあれも全部チェックしてしまいそうな感じがしますが、それでいいと思います。

会 長 : 結構部活に対していろいろ感じることもある先生は、多分いっぱい付けられる気がします。複数回答を可にすると、どれが重要な要因なのかが見つけにくくなるっていうこともあるかと思います。

委 員 : たくさん選択肢は上げておくっていうことであるならば、それはそれでいいのかなと思いましたけども。

会 長 : アンケートをどういうふうにするのかという狙いですよね。どう分析していくのかによるところですね。

委 員 : 教員、部活動顧問、管理職、今部活動指導員といろんな立場をやってき

ましたけど、設問については概ねこれでいいのかなと気はしています。自由記述の校長の部分については19校なのと、大きな方向性を決められるのかなと思うので、大事なかなと思います。私見も入りますけれども、将来的なロードマップへの第一歩と考えるならば、学校教育の範疇ということで部活動を今後同じようにやっていきたいと思っているのか。学校教育でやって行きたいが少し課題があってこういうふうに変更してやって行きたいと思っているのか、あるいは学校教育の範疇じゃなく生涯学習的な範疇を視野に入れていくのか、そのあたりの構造がわかって、今の校長は将来見通しをどう考えたいと思っているかが出ればいいかなと思うところです。

会 長 : 大きな道筋としてどういう方向に向かっていくのかというご意見だったかと思います。

委 員 : 校長のアンケートで申しますと、3番の設問は、現在のことを聞きたいのか、今後のことを聞きたいのかを明瞭にした方がいいと思いました。学校教育の中でやるのか生涯教育の方でやるかっていう視点を聞いているのか、子どもをどう育てていきたいのかを聞きたいのかというところも含めて、少し複雑に校長が考えてしまうかなと思いました。だからもう少し明瞭に質問してもいいような気もしたのです。それから9番ですが、学校運営上必要だと思うかっていう設問になった場合、学校運営上っていうところに縛られて答える可能性もあります。将来的に教育の範疇であるかどうかを質問しているのか。そのピントがどこにあるのか校長として戸惑う。ピントを絞って聞いてもいいような気もしたわけです。

会 長 : 校長の立場で答えたときに意図することが明確に伝わっているかといったところですけど、このあたりいかがでしょうか？

委 員 : 私も中学高校大学とサッカーをやっております、去年からサッカーの顧問もずっと続けてきました。私も部活動に育てられて部活動人間と自負しているところですが、私見から申し上げますとやはりもう学校から切り離して、地域が担っていくべきと考えております。ですので、その聞き方ですとやはり学校ありきという方向での質問になってしまっている部分で、私のような考えを持っている者は多分必要ありませんが、思い切って付けてしまうのかもしれないのですが、なかなかそういう方向性を問うような回答にならず、どうしても必要が無いって言い切るのは勇気がいると思います。多分それだと「どちらとも言えない」に付いてしまうので、副会長のおっしゃる通り今後の方向性を問うというような明確な設問のほうがいいのではないかと感じております。

委員：私は先ほどの令和4年度、令和5年度にやってきたアンケートの結果が出たのを見て、やっと何か現場で意識が始まったのだなっていう感じがすごくしたのですね。やっぱり自分ごとになかなかなくて、上から部活動地域移行って言われても、え？みたいな、皆そんな中からスタートしているので、そういう意味ではこれだけ具体的に「そうだよね。こういう、これも考えられるよね」というのを事務局の方が全体を捉えることができるようになってきたっていう過程がすごく見える感じがします。だからやっぱりすごく部活動の地域移行って時間がかかる事で、そんなに簡単に行かないと思うのです。ただ藤沢市の特徴ってあると思うので、この藤沢市に合った形で移行していくっていうのはいろんな方法があるのではないかと私は思っています。だから今の管理職の立場でというのもすごく大事な意見だと思います。今年は初任者の指導をしているので2校に行っていますが、現場で部活動の地域移行の話がちょこちょこ出ています。学校によっては1年生がサッカー部に入らなかった。1年生が入らないことってありえないじゃないですか。サッカー部こんなに盛り上がっているのに。なぜかという、もうクラブチームがあるのです。そういう風に変化している状況があるので、アンケートをとりながら現状を把握していく。「これだったらこれに当てはまるな」という風を選んだ事で自分事にしていく事はすごく意味があるような気がするので、大変ですけど今はタブレットとかスマホでおそらくやると思います。先生たちは操作の扱いが上手なので、ピッピッとやるのではないかいということも想像できるので、紙ベースで来るよりはQRコードで来た方がチャチャッとやってくれるのではないかなという気はします。

会長：アンケートの結果を知ることじゃなくて、アンケートを教員がやること自体に意義があるのではないかなという貴重なご意見だと思います。また先ほどいただいたご意見で学校長が今後、将来的にどうすると思っているのかを少し意識したような選択肢を再考してみてもどうかというご意見でしたので、これも今後の検討課題といったところで事務局にまたご検討いただければと思います。

委員：全部質問把握してないのですが、今はこういうことなのだと聞きながら思いました。私は保護者のを見てきましたが、先生たちの選択というのは本当に大変なのだろうな。またこのアンケートは全員に聞く対象なのですね？部活持っていらっしゃる方とそうでない方とでどうかなと思います。先ほど副会長がおっしゃったようにこれからどうするか。私は「これからどうなるのかな？」という思いでここに来ているので、質問がはっきりした方がいいかなとか。

でもすごくアンケートする人は大変だなと思いました。

委 員 : この先を見据えてという話が大事なのかなと思ってまして。どうしても保護者の立場から見るとやっぱり自分の子供が通っている3年間だけの話にどうしてもなりがちだと思います。そこから先どうしていかってというのは、おそらく先生方だったり特に校長先生だったりってところのご判断とご意見とかが重要になってくるのかなというふうに思いました。そういう意味では先ほどのご意見ありました校長先生が今後どういう見方をするのかってところのご意見、アンケートを取っていただくというのはそれも重要なのではないかなと思いました。

会 長 : それではね、先ほどお話にあった校長の9番や3番のどちらかで、今後に関わるところを明確にしたような質問等を設けて自由記述もあると、そんなところで考えていただければなと思います。次に保護者用と生徒用についてのご意見に移りたいと思います。

委 員 : 自分の子どもが中学校におりますので保護者の立場としての意見になりますが、特にこの部活動地域移行のことにに関しては保護者の間でもよく話題に最近上がるようになってきていると思います。そういった中でよく上がってくるのが、もし移行した場合に費用ってどうなるのかといった話だとか、あと指導者の先生方が現状顧問をされていますけれども、そこがどうなってくるのかという話や、根本的に部活動の地域移行というところの捉え方が結構保護者によって違う部分があるのかなというふうに思います。昨年度のモデルケースとかでもクラブが担当していたり、あと保護者が担当して上手くいかなかった。保護者会が部活を見るみたいなケースであったり、いくつかバリエーションがあったと思うのですが、割といろんな保護者の方と話を聞いていると、地域って言われると地区の中で動いているのか、あと自校だけで他の学校と関わらないのではないのか、など先入観に囚われた見方をされている方が結構いるかなというふうに感じています。この辺りはおそらく校長先生や教員の先生方の方に関するアンケートとちょっと違う部分なのかなと思っていて、今までのベースラインみたいなところがない状態でアンケートをするということになるので、この地域移行っていうのが現状いろんなケースが考えられていて、こういう特定の地域の意向をこういう形でやりたいっていうのがまだ決まっている段階じゃないというのは注釈でもいいと思うので、何かしらそのベースラインを揃えるという意味で入れておいた方がいいのではないかなというふうに感じました。

会 長 : 学校の教員はそれなりに部活動等いろいろ議論しているわけですけど、特に保護者の方はあまり知識がない中でこのアンケートをやられると一

体どういう意味なのだろうっていうそもそも論。部活動とはそもそもどういうことなのかだとかですね。これも戦後いろんな意味で位置づけが変わっているわけですから、部活動とか例えば地域コーチ。ここに書かれているような「地域は」、「クラブ活動」という言葉が結構難しいです。昔は学校でやるものがクラブ活動の定義があったようなところもあるものが、「地域クラブ活動がスポーツ庁から出ていますから、いろんな解釈がある」といったところで明確に記述することは難しいところもあり、そんな意味で保護者の方に予備知識みたいなものをどう位置付けていくかといったようなご意見かと思います。

委員：保護者向け、生徒向けについて、やっぱり動きを追いかけられている私達とは違って、情報が散発になっていたり、今年から中学校に行った親御さんと3年間継続して生徒さんを預けている親御さんでもやっぱ違うと思います。一番はその答えたインセンティブがないとだんだん回答が減っていくのかなと感じています。生徒さんは答えてくださっている子もいると思いますし、学年を変えてやっているとしても何か「そういうアンケート来たよね？答えたけれど結果はどうなった」みたいな空気感が出ないといいなと感じていて、なかなか進捗が出るものでもないと思うのですが、何か答えてくださった方には「今こうなったよ」とか、これから答える方には「こうなっていくために答えてほしい」みたいなものがもちろん先生方にもあった方がいいかなと思います。より保護者や生徒の方々には答えることで何かが変わるみたいな期待感を持って答えてもらえるといいかなとは思いましたので、そのあたり気をつけていただけたらいいなと思います。

会長：このアンケートをしてどうなるのかという、今後ってことですよね。いわゆる地域と学校と保護者が連携して、これからみんなで作っていくってようなイメージが持てた上でやればいいのかないかなといったお話と、あとかなり関心度が違うっていうご意見がありました。この関心度自体を問う質問とも考えられないことはないわけですね。要するに「部活どのくらいこういうことが議論になっていることを知っていますか」みたいな、まだ関心なかったとか結構考えているとか、そういったような質問があれば層別に分けて関心のない人たちはこう。関心がない人達はこうだみたいな層別に分けて分析することもありうるのかなと思いますが、これも含めて検討内容といったことでご指摘いただきまして、ありがとうございます。

委員：私も今、活動している子どもたちがおりまして、ソフトテニス部をずっと面倒見ているのですが、保護者の方と話すとアンケートありましたね

って話にはなります。今年また行うとなると、そのアンケートとこの前のアンケートはどこがどう違うのかというその構造的なところとハテナが浮かぶかな。また来たの？的になっては今回もったいない感じ。このアンケートのあんまり読まれない枕のところが結構大事なかなと思いました。これまでのアンケートでこういうことがわかってきてありがたいございました的なことですよね。この方向が出たので、今回のアンケートはこういう形について問うものなのですよっていうのが書いてあるといひかなって感じに聞こえたのですけれど、どうですかね。

会 長 : おっしゃる通りです。ここの枕読まないかなと思ってここに追加するというよりは、アンケートをやる前のプリントだったり、先生方の説明とかになるのかなと思って言ったのですが、アンケート自体で考えたらこの枕の部分に少し情報量が増えたり、感謝の言葉とか少しそこに未来に向けた言葉が入ってくるとモチベーションが上がるかなというところは私も同意します。前回を受けて今回だったという話と、先ほどお話がありましたけど、アンケートを通して課題に気づいていく。そういったところもありますのでその辺をアンケート自身で一つ考えるきっかけになる側面も加味していくっていう方向で。

委 員 : この部活動の地域移行は、藤沢市の場合は段階を経てやっていくという話になっていて、まずは休日土日の外部とか地域の移行進めていきましようという段階が重要に思います。保護者は3年間しか関わらないので、その間の自分たちの子どものことを想定してアンケートに答えるとする、「地域移行が今はこういう段階で、ここ何年間で土日を完全に地域の人たちに任していくためにこれを聞きます」みたいな、それにあった設問とかにしていかないと、大局的に全体地域移行、要するに生涯学習に移行していく中で、費用負担がどうだとかっていうことよりは非常に具体的な現実的な3年間とか5年間を見据えて、保護者としてどう考えますかっていうアンケートを取った方がよりこちらの取り組みに落とし込めるのではないかと、今議論を聞いて思ったところです。それから、これはちょっと具体的に質問のところで稟議をさせていただきたいのですけども、63ページのところで6番、7番、次が8番というところで、部活の専門的技術指導のことについて唐突感が出てきています。特に7番で外部の指導者にそういう専門的技術指導が受けられていると思いますか？8番で受けさせたいですか？みたいな質問で当然ながら学校の顧問の先生等もいろいろ課題もあつたりとかして外部の専門家に頼めば当然ながら専門的指導が受けられるというのが理想ではあると思うのですが、現実的にはなかなかそういうのは例えば報酬の面も含めて厳しい現

状があるのではないかと考えています。それで対比をすると30ページに校長向けのアンケートで来春どういう人を採用しますかと、最初に技術専門技術指導ができると書いてありますが、ここに例えば熱心であるとか人格に優れているとかっていう項目があります。採用しようとしている学校側は、技術指導だけではなくて、学校ときちっと連携を取れる方とか生徒に向き合ってくれる方とか真面目にやってくれる方を欲しているというようなものが出たときに、保護者や生徒に対するアンケートで、地域の指導者から専門的技術をただ求めているのかどうかというのが、設問として不整合があるのではないかとと思うのと、部活動をやる生徒全員とその保護者全員が技術的に高い水準を求めているのか、それとも友人関係を作りたいから入るのか。楽しむためのスポーツや文化活動をやりたいのか、様々な背景がある中で、いきなりここで技術のことだけを問われると、保護者に何か間違ったメッセージ、要するに地域移行の地域指導者は専門的な指導を行える人がやるから素晴らしいことなのですよみたいな、間違ったメッセージが届かないかなという懸念があります。専門的な技術指導があるに越したことは無いが、それ以上にもっと大切なものとか、これまでずっと継続してやられている方たちの中にはそういった面よりももっと他の面で学校や生徒に対して影響を与えている指導者の方もいらっしゃると思うので、この専門的技術の指導のところだけが特出されていることに違和感がありました。

会 長 : 二つご指摘の意見等があったと思います。一つ目が土日に地域に移行していくという意図を明確に示した上で質問していった方が良いというご意見と、二つ目が専門的指導はワンオブゼムとして保護者にも問うべきではないか。保護者には専門的指導を前提にした質問が入っているといったことに対する違和感だったのかなと思いますがこの点に関して他の委員いかがでしょうか？

委 員 : 67ページの18番の質問ですけれど、ここはいきなり記述式になっているのですが、先ほどからも話が出ているように部活動の移行の狙いとか目的とか、そういったことがまずあって、例えばアンケートの鏡文なり何かにその説明があって、それを受けてここに書くような形になるかと思っています。ここも選択肢を付けといてあげた方がいいのかなと考えているのですが、今の専門的な技術のことも含めながらその他にいろいろ聞いて気になることや期待することを書いてもらうという形はいかがなののでしょうか？

会 長 : 土日に移行していくといったところに対する説明をどう入れていくのかといったところが、先ほど言った保護者向けの67ページの18番に当

然関わってきて、何故部活動地域移行するのかといったところがよく見えないまま書くことはちょっと難しいかもしれない。そんな意味では選択肢を設けてもどうかといったようなお話かと思います。

二つありましたが、前半の部分の、まず部活動自体が土日に関しては地域に移行していくといったことの方針を示すのかどうかというところですね。他方ではもう1回ニュートラルに戻って素朴なところで聞きたいというところも一方ではあるかと思います。

土日の移行を前提にした質問枝なのか、もう一方ニュートラルに戻して聞こうとしているのか、どちらの方がポイントなのかといったようなところかと思います。

事務局 : 休日から地域移行という出発点で昨年度始まっているのですが、そこについては国が言っている令和5年度から3年間かけてと、そこが確かに藤沢市も出発点にはなっているのですが、いろいろと大きな課題等も始めたことによって改めて気づくことがたくさんありました。今この段階で何年度を目途にこうなるという、そういったことをはっきり申し上げられる状況にないと捉えております。モデル実証として、休日の地域移行の実証をやっているという事実もあるのですが、それが何年度をもって完全に移行するというのが、現在本市としては申し上げられない状況にありますので、そういった意味ではニュートラルというニュアンスも多いかなと考えているところです。

会 長 : ここは非常に難しく、デリケートなところだと思います。ある意味トップダウンでいくと、それに当然反発も出てきて、けれどもやはりそれぞれが同じニュートラルに立って一緒に作っていくのだという立場を強調することによって、みんなでできた案だという作り方を一方ではしたいといったようなところも当然あるかなと思います。ただ部活動地域移行がどういう意味で言われているのかといった知識に関して、保護者がナッシングだと確かに答えにくいといったところはあるかと思いますが、これは一つの検討点としてチェックしていただければなと思います。続けて二つ目の専門的指導が保護者のところで強調し過ぎているのではないかということについて、校長のところでは専門的指導はワンオブゼムとして位置づけられていると。それに対して保護者の方では、62ページの4番で「お子様には部活を通してどのようなことを学んだり身につけてほしいと思いますか」の質問には、技能の向上がワンオブゼムとして位置づけられており、ここは校長と同じである。しかし6、7のところでは技能の向上を選んで、選んでいないに関わらず、全ての保護者に聞いていると、こういったところがどうかと思います。

委員：先ほどの「誤ったメッセージ」というところに非常に私としても賛成します。特に部活動指導員が現状入っていない学校の部活動などで、そういう保護者の方がこの設問を見たときにどう考えるかという、部活動指導員が入ると専門的な技術指導を受けられるととられてしまう可能性はやはりあるかなと思います。意外とそういうところを保護者の方はセンシティブに見ているので、そういう意味ではこの質問がここの段階で出てくるのは、将来的に何か良くない影響が出る可能性はあるのかなと正直思いました。

委員：難しいと思うのですが、私は地域で空手を教えているのですが、専門的になるわけですね。指導者の立場から言うとやっぱり上手になりたいたいいろんな費用がかかる。参加するにも大会に参加するにも費用が掛かる中で、部活動ってどの程度お金が子どもたち、保護者の方で負担するのかちょっとわかりませんが、私が一番思っているのは金額のタイプと書いてありましたけれども、実際にどれくらい掛かっているかなっていうところがとても心配になったのと、金額によって今までできていたとか、できなくなったとか、楽しく部活をやりたかった子たちができなくなってしまうとか、そういうところをどうしていくのかなとか、思いました。技術を学ぶのは凄くて、それに向かって精神的に鍛えていくというのは凄いことなのですが、本当に部活の目的が何をして欲しくて、保護者がそこに何を求めて子どもたちを参加させているのかというのがもっと具体的にわかると良いなというのと、子どもたちの意見がはっきりとここに見えてくると良いなと思いました。

会長：保護者の方が狙っているところ、そこに応じて当然変わってくるといったところで、そんな意味では技能の専門的技術指導を願っている保護者にとって聞くのかどうかということです。例えば先ほど言った62ページの4番で技能の向上を目指していると選択した人のみに6番7番を聞くとかいうことも当然あり得ますし、そうすると6番技能の向上以外に活動を楽しむって言った保護者については、これは要らないという立場が一方では出てくるかと思いますが。

委員：前の設問の絡みも当然あると思いますが、校長サイドで聞いているものと同じように保護者や生徒が求める外部指導者について、どういう指導者がいいのかというスタンスで聞いて、その結果がやはり学校の先生じゃなくてそういう外の人であれば、専門性をやはり重要視するということであれば、今後の流れの中で外部指導者については、その専門性を重視した制度設計をするというふうにこのアンケートを作られていくと思います。なので、例えば専門的な知識や技能を持っているけれども、

やっぱり子どもにきちんと向き合ってもらっている人の方が助かるという意見であれば、そういう人材を集めてくるとか、そういう人材を育成するっていう方向に今後していかなきゃいけないのではないかと思います、そういう聞き方であれば、校長先生がどういう人を求めている。保護者はどういう人を求めている。生徒はどういう方を求めているっていうふうに同じような土俵である程度はできるのではないかと思います。

会 長 : 貴重なご意見ありがとうございます。校長の方に照らし合わせながらですね、4番では「何を学び身につけてほしいと思いますか」に加えて、「外部の指導してくれる人に対してどういう指導者を求めますか」みたいな、そういう選択肢が今ないですね。要するにどういう指導者を求めていますか。指導者に期待していることというのはないでよろしいですか。それではその辺もぜひ考えていただいて。そうした場合この専門的な技術者云々はどうかされますか。なしでいいのかそれともやっぱり。

委 員 : この63ページの7の設問は、顧問の先生から技術が学べないときに、外部指導者などを養成して指導を受けると専門的な技術を受けられるからいいという、多分前のアンケートでそんな設問があったように記憶しています。外部コーチが来たら専門的な技術も教えてもらえていいというようなことを保護者の方が言ったか言わないか、そういう回答に基づいて、この設問ができるのかなと感じたのですが、だから唐突と言えば唐突なのですけど外部コーチに求めるものが、こんな形で質問になったのではないかなというふうには思います。

会 長 : 文脈がうまく作れれば唐突でなければ、前回の質問に繋がる質問になりうるっていうご指摘かと思います。この辺私もどういう質問だったかちょっとわかってないところもあり、申し訳ないです。外部指導者に期待していることは何かみたいな質問を含めていくことと、専門的な技術指導について誤解を持たれないような形を留意しながら前回の質問に合うような形であれば適切に位置づけられるのであればいいというご意見があると思います。これはまたご検討いただくという形でよろしいでしょうか？

委 員 : 今の話の流れですけれども、64ページの8番に今後お子様に専門的な技術指導を受けさせたいと思いますかっていう問いかけがあったので、ここに顧問先生から受けたい。部活動指導になるから受けたいみたいな感じで6番7番。

会 長 : 6番7番より8番が先にあった方がいいってことですかね。ただ先ほどの選択肢の中に専門性が入ってくると、実はこの8番も含まれてくる可能性もあるといったところで、どういう期待をするということを含

めて8番も考えなきゃいけなくなる可能性もあるわけですね。

委 員 : 41 ページ、生徒向けアンケートの5番ですが、「現在参加している部活は有意義と思いますか」という設問がありますが、これは非常に重要な設問だなと思います。それが保護者の方にはないのです。満足度を感じているかっていうことは問われていないのです。あと集計する際にちょっとお聞きしたいのは、5番の設問とクロス集計して、とても有意義だと思っている生徒はどういうことを身につけられているとか、クロス集計的なデータを取っていただけると、部活動として何が生徒にとって有意義なのか、保護者がなぜ有意義だと感じているのかわかるのではないか、その理由を探れるような考察をしてもらえたら活きるのではないかと思います。

会 長 : 生徒の満足度を聞くのは非常に意味があるといったところでのクロス集計をやっていただきたいです。保護者の方にはやっぱりこれと設けて生徒と保護者の間に一致不一致があるのかクロスで分析できるかと思いますが。この点いかがでしょうか？

委 員 : 私は揃えていた方がいいかなと思います。保護者向け、生徒向けに合わせた質問にしてクロスで見えていった方が有効な分析結果になるかなとは、ただプレイヤーが生徒なのできっと保護者の方はその部活動はしていないので、この設問が抜けたのかなとは思うので、誤解のないような聞き方にする方がいいかなとは思いますが、同じような意義を感じる満足度を聞くというのはとても大事な要素かなと思います。

委 員 : 私は昨年度にも委員会に参加させていただきました。私は文化の代表ですけれども、なかなか文化方面の地域移行といってもスポーツのように受け入れがない。サポートが難しい状況ではありますが、そういった状況の中でこの地域移行をどうするかということについて、今年度具体的に話をしていけたら宜しいかと思います。

会 長 : 今回はアンケートとしては校長、教員、生徒、保護者、ここに地域の方々はどう受け止めているのかと先ほどの議論にありますように、保護者の方については教員より部活動地域移行についてあまり認識を持たれていないという中で、問題意識を持ってもらうためのアンケートでもあるので貴重なご意見をいただいております。そういった意味では地域のいろいろやっていただく方自身の認識も三者協働で作っていく上では、なくてはならないものであるし、ここにおられる人はその代表の方だと思います。地域の方々、ここにおられる委員の方は当然認識がしっかりおありだと思いますけど、他にもいろんな組織があるかと思います。音楽の話は難しいといったようなお話もありましたけど、この辺いかがで

すかね。周りを見渡したときに地域としてこの問題をどう受け止めているかっていう現状把握ですけれど、難しい問題かとは思いますが。

委 員 : 私の団体の話ですが、中学生高校生あるいは大学生という若い人達にオーケストラを継いで行っていただきたいのですが、なかなか若い子ども達に参加してもらえないのを危惧している。そのあたりをどうやって行くか。オーケストラで言えばジュニアオーケストラがありますが、今はもう本当にメンバーがいなくて加入するのも大変なのです。本来であれば地域移行というのはそういうところが受け皿になるのかと思ったのですが、そういう状況ではあるので、これからも委員会で議論できれば。

会 長 : なかなか三者一体で作ってするのは難しいというお話があるかと思います。この間、たまたまお聞きした話の中に九州の長崎の話を聞いたときになるほどなって思ったのが、教育長からのトップダウンで言ってもみんな知らんぷりしてそんなのやれるかって話だったのが、ある学校ではそれこそ教員と地域の方とで集まって何とかできないかなという、要するにトップダウンじゃなくてボトムアップ式で動いていたところ、いろいろアイデアを出し合って、これならうちの学校ではできるかもっていった形で始まったそうです。そうするとボトムアップで始まっていますからある意味共通の認識を持っている、スタート地点が一緒、これは学校がやることでしょうとか、押し付け合いじゃなく、我々で何ができるかなといったところからスタートすると、結構うまくいってそれが徐々に浸透していったという話もあり。そう考えると今回のニュートラルなアンケートも一つ意味があると思ったのは、上から「やるぞ、だからどうすんだ」じゃなく「何ができるのだろう、我々三者で」と徐々に立ち上げていくとボトムアップで「うちの学校ではこんなことができるよ」とか。いわゆる保護者と教員と地域が同じ土壌に立ってアイデアを出し合う、そういう組織が出来上がるってことですね。結果じゃなくて。そういったところを我々はゆくゆく焦点を当てて考えていかないと、いくらトップダウンでやっても、これはあっちの問題だとか、これはうちには関係ないとかそういう議論で終始してしまう。そういったこともあり、ここにいるメンバーで、それぞれの地域、学校で保護者も、皆さん保護者でもありますからそんな意味も含めてこのアンケートを今後のあり方もぜひ模索していければと願っております。はい。かなり時間がもう10分前になりましたのでそろそろ終わりにしたいと思います。その他ここは言っておきたい等の意見があればお受けしたいと思います。

委 員 : 今ありましたように、今度は受け手となる地域のスポーツ団体とか地域の活動団体について、本当にクラブ活動の地域移行ということの内容が

行き渡っているかどうかが課題になってくると思います。今回のアンケートではやらない、その受け手がどういう団体になるかが決まっていない段階で、誰にアンケートを取ってアンケートをしたらいいかはわからないから仕方ないと思いますが、今回のアンケートを実施する中でも、そういうことを意識しながらやっていかないとうまくいかないのではないかと思います。それから受け手の方も、課外活動である部活動をその地域の方が担っていくのか、あるいは全くその学校から切り放された地域活動として受けていくのか、地域のクラブ化という形で進めていくのか、そういうところの将来を見たところで、どんな形でやっていけるのかっていうことをある程度、見定めた中でのアンケートにしていかないと、なかなか実にならないのではないかなという気はしています。本当に地域に移行するというのはわからないではないのですが、地域に移行されたときに、その活動の場所だとか指導員だとか、そういう形やその組織をどうやって作っていくのかというところが、固まって来ないとなかなか難しいのではないかなと思っています。

会 長 : まさに三つ目の地域の受け手がどうなっていくのかといったところでの話かなと思います。ここにもアンケートっていう形も当然あるわけですけど、どなたにアンケートをするのか。これも確かにご指摘の通りだと思います。あともう一つ地域クラブを学校教育の一環として捉えていくのか。もっと切り離していくのか、これも今後重要な意見かなと思います。

副会長 : 自分もその段階になりつつある今なのかと思いつつも、まだまだ藤沢市はそこに至ってないっていうことをすごく実感しつつあって、今勉強し直しているのですけれども、もう年数的にはその辺まで行っているのではないかなと思っていました。この委員になって勉強してみると、藤沢市はもうちょっと前の段階みたいで、ベース作りが大事な時代、生涯学習的な要素も含めて学校だけで頑張らない、どうしたらいいだろうってみんなボトムアップ的にみんなで悩んで考えて作っていかなくちゃいけない。でも本当に今、いざ構造的にどう作るかってなったら受け皿をどこにするのか、受け皿でやっていく指導者はどう人材を確保していくのか、今いる人達はどうするのか、そこへ移行するのか、トップ選手はやっぱり今の子どもたちを育てるための余力はないから、トップ選手を変な意味、引退された方とかあるいは保護者で熱心。自分の子は面倒見ていたけれども何か指導っぽいことをやっていたら、他の子面倒見ていたら面白くなって続けちゃったよみたいな人材育成もあるので、いろんな方がこうやって残ってくださって、今の子どもたちを育ててくださる人材

になりつつある傾向も今はあるので、全く頓挫しているわけでもないの
でそういうあり方もこのアンケートの視点の中に入れつつ、そこへさら
に進展していくといいのかなっていうふうに思って聞かせていただきま
した。

委 員 : 生徒用のアンケートの11番のところですが、上から四つ目に実技指導
をしてほしいという条項だけが生徒指導のアンケートの中でハテナが
浮かんた。どういう意味だろうと思って。部活動としては実技指導して
いるに決まっているじゃないと思ったものですから。生徒に聞かれちゃ
うと、生徒は何が聞かれているのかと思ってぼかんとするかなと思って。
今よりもっと専門的な指導をしてほしいって意味で聞いているのか、こ
の質問の意味がちょっとわからなくて後でここは丁寧にした方がいいな
と思いました。保護者については、14番と15番に関わるところです
けれど、学校教育の枠内でやってほしいと思っている状態なのか、
そこを改善してやってもらいたいって思う将来なのか、生涯にわたって
の学習という形で学校がそこまで踏ん張らなくてやっていくような流れ
なのかっていうところを、保護者に明確に、聞いてみていいのではない
かという気もしているので、15番的なところはあくまでも教師による
指導体制を望んでいくような感じのイメージと、その構造で生涯にわた
って学習するような形で学校でないことも含めての移行も視野に入れて
いった方がいいと保護者の方としては考えているのかっていう、その方
向性を保護者に探るような質問的なものにもうちょっとうまく言葉を変
えて聞けると、尚この項目が生きていきそうな気もしました。

会 長 : かなり先ほどから中心課題の一つになっているところだと思います。今
後を見据えてといったところのどこまでを我々前提にアンケートをして
いくのかといったお話かなと思います。言い方を変えると、学校が続け
てやっていくのだといったよりは、地域に移行していくのだといったと
ころをどこまではっきり明確に保護者にも示していくのか。この辺を検
討材料として一つ上げて今後の課題にさせていただきたいと思います。
本当に活発なご意見いただきありがとうございます。いろんな意見が出
される中で我々の認識も深まるとともに、このアンケートもより良い形
になっていくのではないかなと思います。

それでは最後になりましたので、これで私の司会の方は終わりにさせて
いただいて事務局の方に回したいと思います。事務局の方からよろしく
お願いいたします。

事務局 : 委員の皆様、長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございます。
本日いただきましたアンケートについてのご意見等は、もう一度

事務局の方で精査いたしまして反映し加筆修正したものを後日委員の皆さまにはお示しできたらと思っております。その上で学校を初めとした各アンケート対象者のもとへアンケートが届くようにという算段で考えておりますので、ご承知おきいただければと思います。それでは次回の協議会になりますけれども、11月の1日金曜日の午後を予定しております。場所は市役所本庁舎の8階の会議室を予定しておりますが、また近くなりましたら依頼文をお示ししたいと思っております。

また今回、加筆修正したアンケートを実施した後にアンケート結果を事務局の方でまとめていきます。そのアンケート結果を事前に委員の皆様にはご送付させていただきまして、お忙しいとは思いますが、お目通しをいただきまして第2回の11月1日の協議会の中で本市の部活動のニーズや課題をどのように捉えていくかといったところで、ぜひ円滑なご協議ご協力いただければと考えております。

委員：一つだけちょっと事務局にお願いがあります。事務局に学務保健課がいまないので、今お答えをいただかなくてもいいのですけれども、前年、前々年から教員の兼業兼職規定のことが話題になっていました。それが進んでいるのだろうなというふうに思うのですが、ケースとしてこういうケースはどうなるのかというのを調べていただきたいです。今までの議論の中ですと、土日に兼業兼職として、部活動指導員をやった場合も本業との労働時間や法定労働時間を起こしてしまうので、それはいけないですよね？みたいな話があったというふうに思います。その中で、私の理解が合っているかどうかわかりませんが、例えば第一中学の先生が明治中学の部活動を例えば自分のお子さんがいるとか、地域との繋がりがあるとかという形で、部活の指導員、外部指導者で指導した場合には兼業兼職の届け出と許可は必要だというふうに思うのですけれども、そういった本職との労働時間の関係ですとか、そういったものに抵触をするのかどうか。我々なんかもそうですけれども、通常勤務をしている中で、土日ボランティアでいろいろなところを指導していく中では、そういうものは一切考慮されてないというところで、教員の方たちが例えば自校であれば学校の仕事の延長線上なところがあるかと思うのですけれども、他校ですとか、例えばそういう意識がある方が他市の中学校の指導をしたなど、ということも教員の労働条件の問題に抵触するのかどうか、次回までにちょっと調べておいていただければと思います。

事務局：はい。承知いたしました。次回までに確認をしたいと思っております。今年度から事務局の方に学務保健課と学校施設課の職員も記載させていただいておりますので必要に応じて関わりながら進めてまいりたいと思いま

すので、よろしくお願いいたします。それでは次第の8番、閉会挨拶ということでございまして、新屋敷副会長よりご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

副会長 : 皆様暑い中、貴重なお時間ありがとうございました。ここで話し合った内容は今聞いていただいた事務局の方々が時間の関係もございまして十分に酌み取っていただいて、アンケートを作成、実施していただいて、次回までに結果等を事前にいただけるということでございますので、本当に大変なお仕事だと思いますけれども、ありがたく思いながら次回にまた勉強してこの場に臨みたいとも思っております。また私の方は国大の池田先生を会長に推薦してしまっていて責任を感じていたのですが、先生じゃなきゃ難しかったかとも思い、聞いていて本当にすごいなと思います、この会が本当に素晴らしくできて自分も嬉しく思いましたし、この場にいることを幸せに思いました。委員の皆さんも去年のことがあって今年だと思います。私今年ぽっと入ったのでわかっていないところがたくさんあったのですが、流れもわかってきて途中で委員の皆様の話を聞きながら、これまでの流れを十分に踏まえた上で前進している今年ということで、保護者、生徒のアンケートにも、枕のところもそうですが、イメージ化していただいてというところで、十分に今後とも発展的に継承しながら、今年やらせていただけていると思っています。また次回皆さんに会えることを楽しみにしながら、閉会にしたいと思います。皆さんも本当にありがとうございました。

会 長 : 新屋敷委員ありがとうございました。以上をもちまして第1回部活動地域移行推進協議会を終了させていただきます。お帰りの際にはお忘れ物ないようお気をつけください。駐車券の認証が必要な方はお帰りの際、事務局にお声掛けください。本日は誠にありがとうございました。